

## 第74回日本食道学会学術集会を終えて



第74回日本食道学会学術集会 会長

丹黒 章

(徳島大学大学院医歯薬学研究部  
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

12月10日(木)、11日(金)の2日間、第74回日本食道学会学術集会を、Webを主体としたハイブリッド形式で開催いたしました。

2020年は56年ぶりに東京でオリンピックが開催される年でしたが、年初から、中国人民共和国武漢市発の感染力の強い新型コロナウイルス(COVID-19)が瞬間に世界中に蔓延し、世界保健機関(WHO)も早々にパンデミックを宣言、オリンピックも聖火リレーが始まる直前の3月24日に来年7月23日開催と1年間の延期が決められました。

第74回日本食道学会学術集会は6月11日(木)から12日(金)に徳島市で開催する予定でしたが、安倍晋三首相の4月7日の緊急事態宣言を受け、理事会に諮って6か月先に延期を決定しました。当初、9月から11月には春以降の学会が、延期されて目白押しだろうとの懸念と6か月経てばコロナ禍も収束しているだろうとの甘い見込みで12月の会期とさせていただきます。

しかし、学会直前の11月中旬から欧州に第3波が発生し、その影響は日本にも波及し、連日2,000名を超える感染が確認され、学会初日、2日目とも2,808名、2,972名と過去最高の感染者数を記録し、結局、現地への参加者は70名ほどでした。コロナ禍における「邂逅」の難しさを実感いたしました。

これまで何度も申し上げてきましたように、日本食道学会の前身である食道疾患研究会は、1965年10月19、20日に徳島で開催された第18回日本胸部外科学会定期学術集会(当教室初代高橋喜久夫教授が会長)の会期前日の10月18日に徳島眉山ホテルで発会いたしました。本年は食道学会が発足してちょうど55周年にあたります。記念すべき55周年ということで本会のテーマを「邂逅そして創造」とさせていただきました。「人と人が出会い新しい何かが生まれる。人と物が出会い、また新しい何かが生み出される。人生は邂逅であり、われわれは師との出会いで多くを学び、仲間からさらに多くを学びます。食道疾患研究会が発足したことで、多くの出会いが生まれ、日本の食道疾患、とくに食道癌の診断と治療は飛躍的

に進歩して、世界をリードしてきました。

今回、多くの上級演題を領域横断的セッションとさせていただき、55年の進歩を振り返りながら各々の専門領域から新たな創造を目指して、最新の知見、研究成果、手技の工夫などについてご発表いただきました。ディベートセッションでは治療選択に迷う症例を提示し、お二人のディスカッサントにエビデンスを提示しながら議論していただきました。Webを主体としたリモート会議となりましたが、会場からも活発なご討論をしていただき、あっという間に2日間が終わってしまいました。今回、評議員会と教育セミナーは別メニューでWeb開催させていただいたにもかかわらず、会期2日目までに1,200名以上と多くの先生が参加登録してくださり、ライブ配信を視聴していただきました。

ハイブリッド開催の妙味は、これらのセッションを2021年1月11日までアーカイブ配信することで、各会場で行われた白熱の議論をオンデマンドで何度でも視聴できることです。3密を避けるために会場では発表いただけなかった一般口演、ポスターセッション、そして一部の共済セミナーやテクニカルセミナーも視聴できます。どうぞ思う存分お楽しみください。

「後生可畏」、無限の可能性を持つ後生との邂逅はさらに多くの学びを通して食道学の未来を構築し、食道学会をますます発展させてくれることでしょう。

本学術集会開催にご支援いただいた多くの方々に心から感謝いたします。

2020年12月14日



## 令和2年度 名誉会員推戴 ご挨拶

### 日月 裕司

(川崎幸病院 がん治療センター センター長)

この度は日本食道学会の名誉会員に推戴していただき、誠に有難うございます。上司の勧めで国立がんセンター病院のレジデントとなり、1987年に飯塚先生のご栄転に伴い偶然に食道外科の医員となったのが、食道癌診療に携わる始まりです。当時開催されていた食道症例検討会で井手先生、幕内先生、吉田先生をはじめ多くの先生方に、名前が珍しいことで実力以上の知遇を得ることができ、その後の日本食道学会での活動につながりました。渡辺先生、加藤先生のもとで食道癌取扱い規約と全国登録に関わり、安藤先生、藤田先生のご指導をいただきました。日本のリンパ節規約の原理を広めたいと思いましたが、Orringer教授にリンパ節郭清を否定され、Rice教授に頸部リンパ節を領域リンパ節と認められず、原理主義ではプラグマティズムに通じないことを知らされました。集学的治療の発展で外科の役割の変化を実感しています。日本食道学会の集学的発展を願っています。

### 丹黒 章

(徳島大学大学院医歯薬学研究部  
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

2020年7月7日に開催されました令和2年度日本食道学会評議員会におきまして名誉会員に推戴されました。例年であれば、評議員会において推戴状授与後に壇上からご挨拶を申し上げるところですが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で評議員会がWeb開催となり、このニュースレター紙面をお借りしてお礼のご挨拶をさせていただきます。

思えば、昭和56年に徳島大学を卒業し、山口大学第二外科石上浩一教授の門下に入り、間もなく食道疾患研究会にデビューいたしました。時は流れ、食道疾患研究会発会の母学会となった第18回日本胸部外科学会学術集会会長をされた高橋喜久夫教授が開講された徳島大学第二外科に平成16年に教授として赴任しました。そして、発会55周年となる第74回日本食道学会を誕生の地である徳島で開催できた運命の巡りあわせに感謝し、ご支援いただきました先生方に衷心からお礼申し上げます。食道学会がますます発展し、多くの「邂逅」と「創造」を育むことを楽しみにしております。

## 令和2年度 特別会員推戴

大倉 康男 先生	松浦 弘 先生
大原 秀一 先生	矢永 勝彦 先生
大森 泰 先生	弓場 健義 先生

### 夏越 祥次

(玉昌会加治木温泉病院 院長)

#### —日本食道学会に育まれて—

この度は日本食道学会名誉会員にご推戴いただき誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。私は食道外科医を志して以来、食道疾患研究会、食道学会を通じて発表、座長の機会をいただき、多くのことを勉強させていただきました。幕内博康先生から理事にご推薦いただき、翌年に鹿児島で愛甲孝会長の下、第12回国際食道疾患会議が開催されたことを懐かしく想います。また、用語委員会委員長を拝命し、食道疾患用語解説集(第2版、2012年発行)の編纂作業は、大変貴重な経験となりました。また各種委員会で活動の場をいただきました。中でも専門医制度に関しては、規則、症例数、術式などが熱く討論され、面接試験終了後には多くの先生方と親交を深めることができました。一流の国際誌となったEsophagusの一編集委員として参加できたこともうれしく思います。今後、日本食道学会が世界に向けて、益々発展されることを心より祈念いたします。

### 門馬 久美子

(公益財団法人 早期胃癌検診協会)

名誉あるこの食道学会の名誉会員に推戴頂き、誠に有り難うございます。食道学会は、昭和40年に発足の食道疾患研究会が平成15年に食道学会に発展しました。約55年の歴史の中で食道癌の全国登録を実現、食道癌の診療と研究は世界をリードする水準までになりました。私が参加した頃の食道疾患研究会には内科の会員が大変少なかった事を覚えています。会員となって、食道疾患の診断学や治療学について多くの事を学ばせて頂きました。当時は食道癌の大半が進行癌でしたが、内視鏡診断の進歩とともに早期の癌が発見できるようになりました。私は1988年から粘膜癌の内視鏡的治療を始めました。食道癌の診断・治療の領域に内科医が加わり、外科医と共に診断から治療までを総合的に見るようになりました。2020年3月までに2,100例以上の早期癌に対し内視鏡治療を行う事ができました。この間に、早期食道癌の規約の作成、内視鏡治療例の判定基準の作成、早期食道癌の拡大内視鏡分類案の作成などに携わり、2014年には内科医として初めて食道学会の学会長も務めさせていただきました。700題を超える演題を頂き、1,300人を超える先生方にご参加頂き盛況に行わせて頂きました。定年を迎え、職場は変わりましたが、今後もできるだけ多くの内科医に食道学の面白さを伝え、食道学会に参加してほしいと願っております。今後も学術集会には参加させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願致します。

## 各種委員会・部会報告

役員変更に伴い、各種委員会の再編を行いました。

### 2020年度 各種委員会委員長・副委員長一覧

(2020年12月現在 敬称略)

	委員会名	役職	お名前
1	会則委員会	委員長	神宮 啓一
		副委員長	矢野 雅彦
2	財務委員会	委員長	上野 正紀
		副委員長	根本 建二
3	選挙管理委員会	委員長	岡住 慎一
		副委員長	上野 正紀
4	会誌編集委員会	委員長	松原 久裕
		副委員長	島田 英昭
5	広報委員会	委員長	加藤 健
		副委員長	本山 悟
6	国際委員会	委員長	北川 雄光
		副委員長	掛地 吉弘
7	保険診療検討委員会	委員長	渡邊 雅之
		副委員長	加藤 健
8	倫理委員会	委員長	根本 哲生
		副委員長	上野 正紀
9	将来構想検討委員会	委員長	土岐祐一郎
		副委員長	武藤 学
10	全国登録委員会	委員長	渡邊 雅之
		副委員長	藤 也寸志
11	NCD 部会	委員長	渡邊 雅之
		副委員長	藤 也寸志
12	専門医制度委員会	委員長	亀井 尚
		副委員長	竹内 裕也
13	食道科認定医認定部会	委員長	竹内 裕也
		副委員長	掛地 吉弘
14	食道外科専門医認定部会	委員長	安田 卓司
		副委員長	大幸 宏幸
15	食道外科専門医認定施設認定部会	委員長	本山 悟
		副委員長	矢野 雅彦
16	食道外科専門医カリキュラム設定部会	委員長	亀井 尚
		副委員長	河野 浩二
17	教育委員会	委員長	矢野 雅彦
		副委員長	安田 卓司
18	プログラム検討委員会	委員長	河野 浩二
		副委員長	岩切 勝彦
19	食道癌取扱い規約委員会	委員長	土岐祐一郎
		副委員長	武藤 学

	委員会名	役職	お名前
20	病理組織検討委員会	委員長	眞能 正幸
		副委員長	根本 哲生
21	内視鏡検討委員会	委員長	武藤 学
		副委員長	石原 立
22	食道 ESD 偶発症検討部会	部会長	小山 恒男
23	拡大内視鏡による食道表在癌深達度診断基準検討部会	部会長	小山 恒男
24	拡大内視鏡による Barrett 食道癌診断基準検討部会	部会長	小山 恒男
25	食道癌診療ガイドライン検討委員会	委員長	北川 雄光
		副委員長	根本 建二
26	ガイドライン評価委員会	委員長	大幸 宏幸
		副委員長	神宮 啓一
27	用語委員会	委員長	根本 建二
		副委員長	河野 浩二
28	GERD 検討委員会	委員長	岩切 勝彦
		副委員長	栗林 志行
29	研究推進委員会	委員長	掛地 吉弘
		副委員長	武藤 学
30	総務委員会	委員長	竹内 裕也
		副委員長	渡邊 雅之
31	医療安全委員会	委員長	岡住 慎一
		副委員長	松原 久裕
32	食道噴門腺検討委員会	委員長	根本 哲生
		副委員長	眞能 正幸

〔会誌編集委員会〕

### 祝 Impact Factor 食道分野 TOP!!

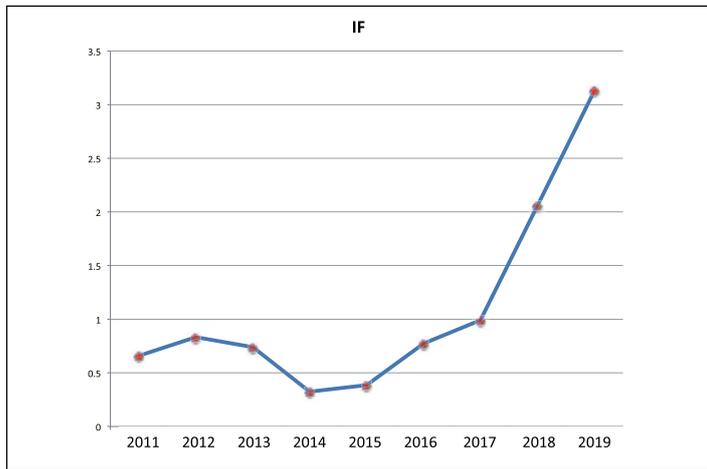
委員長 松原 久裕

(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)

本学会の英文機関誌Esophagus誌は皆様の御支援、御協力により2019年のImpact Factorは2018年の2.061から、何と3.130にまで上昇したことを6月30日に発行しているSpringer社より報告頂きました。安藤暢敏初代編集委員長、小澤壮治前委員長の創刊から引き続いた大変な努力が実を結んだととても嬉しく思っております。Gastroenterology & Hepatology分野ではかつてのブービー争いから脱し、中程の位置づけとなりました。さらに食道に特化した分野ではDisease of Esophagusを抜き1位となりました。本誌への論文の投稿、本誌論文の引用に御協力いただき、心より感謝申し上げます。

最近のIFの上昇に加え、食道分野においてトップになったことがその理由と考えられますが、今年の投稿数は大変増加し、10月末の次

点で2019年の全投稿数の1.5倍の投稿があり、Associate Editorの方々には大変なご苦勞をかけております。そのため、土岐理事長、理事の皆様にはAssociate Editorの増員をお願いし、承認いただきました。新たに上里昌也、宇野隆、廣中秀一、眞部紀明、矢野文章、山崎誠（アイウエオ順・敬称略）以上6名の先生にAssociate Editorを、服部聡先生に統計コンサルタントをお願いし、全部でAssociate Editor 22名、統計コンサルタント2名の布陣となりました。編集陣もパワーアップし、本邦から食道学の最先端を発信していく益々すばらしい雑誌となるように尽力して参ります。食道学分野のトップのみならず、Gastroenterology & Hepatology分野においても上位に位置づけられる雑誌を目指して参ります。そのためには世界の食道学を牽引している会員各位の御支援、御協力が大変重要です。是非ともこれまで以上に、素晴らしい論文の投稿ならびに本誌論文の引用への御協力を、今後とも宜しくお願い申し上げます、大変嬉しい御報告とさせていただきます。



#### 【保険診療検討委員会】

### 令和4年度診療報酬改定に向けた進捗状況

委員長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科)

令和4年度診療報酬改定に向けて準備を進めています。会員の皆様には、要望事項のご提案ならびにアンケート調査にご協力いただき、この場を借りて御礼申し上げます。日本食道学会からの要望項目は以下の通りです。

#### 【技術・新規】

1. 再建胃管悪性腫瘍手術・全摘(消化管再建を伴う)(頸部・胸部・腹部の操作)  
技術度E、11時間で外保連試案に申請承認済み
2. 再建胃管悪性腫瘍手術・全摘(消化管再建を伴う)(頸部・腹部の操作)  
技術度E、8時間で外保連試案に申請済み
3. 食道内多チャンネルインピーダンス・pH測定検査(日本消化管学会を主学会として共同提案)

4. 高解像度食道運動機能検査(日本消化管学会を主学会として共同提案)

#### 【技術・改正】

1. 食道大動脈瘤手術(大動脈瘤切除術と食道切除術の同時算定)  
令和2年度の診療報酬改定においてK527-2食道切除術(単に切除のみのもの)およびK560-2オープン型ステントグラフト内挿術、K561 ステントグラフト内挿術と同時算定が認められたが、K560大動脈瘤切除術との同時算定が望まれる。
2. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(頸部、腹部の操作によるもの)(縦隔鏡下)の増点  
令和2年度の診療報酬改定において胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(K529-2 1、K529-2 2)の増点が認められたが、K529-3は増点されなかった。もともと外保連試案点数との差が大きな術式であり、増点を希望する。
3. ロボット支援下食道悪性腫瘍手術の増点(日本内視鏡外科学会を主学会として共同提案)
4. FDG-PETの治療効果判定への適応拡大(日本核医学会を主学会として共同提案)
5. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(自動縫合器の加算 K936)  
自動縫合機使用個数の増加(6個→8個)
6. 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(自動縫合器の加算 K936)  
自動縫合機使用個数の増加(6個→8個)
7. 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(自動縫合器の加算 K936)  
自動縫合機使用個数の増加(6個→8個)  
自動縫合器の個数増について、実態調査の結果をもって個数増を申請したいと思っております。現在、アンケート調査を準備中ですので、ご協力をお願いできれば幸いに存じます。

今後とも、臨床現場からの要望を保険診療につなげられるように、最大限努力してまいります。

#### 【広報委員会】

### 食道がん治療を行う病院一覧について等

委員長 加藤 健  
(国立がん研究センター中央病院 頭頸部内科)

前委員長の大平雅一先生の後を引き継ぎ、2020年7月より広報委員長を拝命いたしました国立がん研究センター中央病院の加藤健と申します。よろしくお願いたします。広報委員会では、大平先生が作成された、「食道がんを正しく知ろう」に引き続き、患者さん、ご家族へ正しい情報を届けるべく、新たに「食道がん治療を行う病院一覧」を作成いたしました。内視鏡治療を行っている施設として、食道ESDを年間20例以上行っている施設、放射線治療として、JASTRO(日本放射線腫瘍学会)認定施設、手術治療として、食道外科専門医認定施設と準認定施設をホームページ(HP)上に提示し、患者さんご家族がアクセスできるようにしております。このような工夫もあり、日本食道学会

の一般の方用サイトページビュー数は、2020年2月2,216、3月7,588であったのが、7月23,805、9月23,343と、確実にアクセスが増えています。

また、食道がん患者団体である、一般社団法人「食道がんサバイバーズシェアリングス」より、来年4月に開催予定の“食道がん啓発月間シンポジウム”への後援依頼があり、広報委員会および理事会にて検討、承認をいただきました。理事長のWEBでの出演や、演者の派遣など、人的な後援を中心に行っていく予定です。また、同じ患者団体より、団体のHPに、日本食道学会HPへのリンクを置くことについての許諾依頼があり、こちらも承認されました。しかし、HPへのリンクについての規定が必要であるなど、ご意見をいただき、新たにHPのコンテンツについて、“利用規約・リンク・著作権等についての規定”を作成いたしました。今後同様の依頼があった場合には、この規定に則って可否を決定することとなります。

今後も、外部との交流も含め、タイムリーに求められる内容を発信していければと考えております。引き続きよろしくお願いたします。

## 〔倫理委員会〕 倫理委員会報告

委員長 根本 哲生  
(昭和大学横浜市北部病院 臨床病理診断科)

### ＊利益相反(COI)に関する指針を改定中です

日本食道学会では「食道疾患研究の利益相反に関する指針」を定めており、学術集会での発表や役員就任の際には、それに基づいた利益相反状態を開示することが求められています。日本医学会においてもCOI管理ガイドラインを示していますが、近年の改定により本学会の指針と、自己申告が必要な金額などに異なる点が散見されるようになってきました。これらの点を日本医学会ガイドラインに合わせて本学会の指針を改定する作業を行ってきました。さらに本年(2020年)3月に一部改定された日本医学会ガイドラインでは「組織COI」として研究者が所属する研究機関組織そのもののCOI(特許、ロイヤリティ保有など)も管理の対象となったことから、この点についても検討中です。

### ＊食道学会学術集会での発表(演題登録)の際に倫理審査・承認が必要になります

これまでもお知らせしてまいりました通り、文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、日本食道学会学術集会において発表する研究についても、倫理委員会による審査・承認を受けていることが必要となりました。

第75回食道学会学術集会(2021年9月、岩切勝彦会長、開催地東京)から、倫理審査が必要な研究の場合は承認状況を申告していただくこととなります。演題募集のウェブページに、倫理審査の要不要

の判断に必要な倫理指針、研究カテゴリー分類(アルゴリズム)等を掲載する予定です(9例以下の介入を伴わない症例報告など内容によっては倫理委員会の審査・承認を必要としない場合があります)。なお、食道学会倫理委員会が応募演題の倫理審査を行うことは予定しておりません。研究者の皆様方には、研究を計画されましたら、できるだけ早く各施設の倫理委員会の審査を受審されるようお願いいたします。

## 〔全国登録委員会・NCD部会〕 全国登録委員会・NCD部会報告

委員長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科)

平素より食道癌全国登録にご協力いただき、会員の皆様方には心より御礼を申し上げます。食道癌全国登録は2013年症例の後ろ向き登録からNCDに完全移行しました。皆様のご協力で2013年症例の解析が無事に終わり、結果をお届けすることができました。Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2013は従来の紙ベースでの配布から、ホームページ上でのPDF公開に変更となりました。PDF公開ページのURLはNCD事務局から、2013年後向き登録にご協力いただいたご施設の施設代表者あてに9月16日にメール配信しております。ご確認いただいていない先生方に置かれますは、今一度、NCDからのメールをご確認いただければと存じます。もしメールが確認できない先生がおられましたら、学会事務局にご一報ください。また、Esophagus誌にも10月13日にonline publishされました。ご確認いただき、論文ご執筆の際にはぜひ引用をお願いできればと存じます。

2014年の後ろ向き登録は8月17日で登録を締め切らせていただきました。現在のところ、完了・承認済症例は9,026例と、2013年症例より約1,000例多い症例をご登録いただいております。今回から、従来の全国登録のファイルメーカーソフトからエクセル形式の出力を介してNCDへのアップロードできる機能を準備いたしました。アップロードがうまくいかなかったとのご意見もいただいております。次回に向けて、円滑な登録ができますように改善を図ってまいります。

NCDを利用した食道癌登録は2年間の後ろ向き登録を経て、データ登録は軌道に乗りつつあるところかと考えます。一方、NCD利用にかかる費用の問題、データの知的所有権や学会によるデータ利活用の担保等、解決すべき問題点も多く残されています。今後とも、持続可能な食道癌登録システムの確立を目指して、NCDとの交渉を進めてまいりたいと存じます。登録停止としております前向き登録については、これらの課題に目処が立った時点で再開を考慮したいと存じます。

今後とも食道癌全国登録へのご協力を、何卒よろしくお願申し上げます。

## 〔食道外科専門医認定部会〕 食道外科専門医認定試験

部会長 安田 卓司  
(近畿大学医学部 外科学教室上部消化管部門)

今年はCOVID-19が全国を席卷し、本専門医試験の開催が懸念されました。しかし、症例数の施設間格差が大きい食道癌手術や勤務先の異動の可能性を考慮しますと、1年の試験の延期は大きく申請資格に影響すると考えられ、受験者数も少ないので予定通り開催としました。しかし、11月に入ってからの感染第3波の猛威は予想を超えており正直悩みましたが、本試験に向けた受験者の皆さんの努力を鑑み、感染対策に配慮した上で11月21日に二次試験を実施いたしました。今のところは本試験に関係した先生方の中で感染が判明したという情報は聞いていないので何とか無事に乗り切れたと安堵しています。受験者を含め、ご協力頂いた関係者の方々にこの場をかりて深く御礼申し上げます。

では、今年の新規申請の結果についてご報告いたします。新規申請者数は21名(内1名は昨年二次試験不合格による一次試験免除)でした。一次審査20名中、書類審査不合格2名(診療経験不足、研修実績不足)、手術ビデオ審査不合格5名で、最終的に14名の先生が一次審査を合格され、計15名が二次試験を受験されました。今年は受験された先生全員の二次試験の合格が認められ、最終合格率は71.4%と、例年同様の結果でした。では、今年の審査の総評を報告します。

**〔手術ビデオ審査〕**非常に丁寧に操作をされ、中下縦隔も左側を意識した操作が多く、部会からのコメントの浸透を感じました。不合格判定の理由の多くは、気管分岐部郭清の際に気管軟骨輪を確認せずにLN内にリガシユアで切り込んで出血、それに対して盲目的にリガシユアを挿入して止血を何度も試みるという手技が危険行為と判定されたことによるものです。本試験では危険行為の有無は重点的に評価しますので、きっちりと郭清境界を認識して郭清することと出血しても焦らず確実な止血を心がけることを意識して下さい。

**〔手術記録〕**各領域の術者欄はきっちりと記載されている施設が多くなっており、ご協力に感謝いたします。本試験は定型縦隔LN郭清を施行した症例を胸部食道癌の術者として評価しますので、郭清LN No.を記載して郭清範囲を明確にして頂きたいと思っております。全く手術のイラストのない手術記録の施設も一部にありましたが、図は手術の基本ですので腫瘍進展、手術術式が分かるような記載をお願いいたします。

**〔二次試験〕**筆記試験、口頭試問共に平均点は100点満点換算で67点と高く、筆記試験では80点の先生が3名もおられました。口頭試問では、1名28点(30点満点)の先生もおられ、二次試験の最高総合得点は84点でした。

来年もCOVID-19の状況は予断を許しませんが、予定通り11月に実施したいと思っておりますので、是非多くの先生のチャレンジをお待ちして

います。なお、申請資格や診療経験となる手術術式カウントについてはよりチャンスを拡げる方向で改訂をしていますので、食道学会からのメール、レターまたはホームページを十分確認されますよう宜しくお願いいたします。

## 〔教育委員会〕 2020年度教育セミナーのウェブ配信について

委員長 矢野 雅彦(吹田市民病院)

教育委員会では、食道外科専門医試験問題の作成や教育セミナーの企画運営などを行っています。

教育セミナーはこれまで学術集会にあわせて現地にて同時開催をしていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地での開催は断念し代わりに講演動画をオンデマンドでWeb配信することにいたしました。

受講を申し込んだ会員の方には、テキストとセミナー動画視聴のために必要なURL、パスワード、受講証が送付されています(申し込み受付は11月4日で終了)。

配信期間は2020年10月4日(日)～2021年1月3日(日)で、この期間内であれば何度でも繰り返し視聴することが可能です。

### 〔セミナープログラム〕

- 1.「食道癌とゲノム」  
京都大学腫瘍薬物治療学講座 武藤 学先生
- 2.「Barrett食道癌に対する内視鏡診断」  
佐久医療センター内視鏡内科 小山恒男先生
- 3.「食道癌の画像診断」  
倉敷中央病院放射線診断部 小山 貴先生
- 4.「食道扁平上皮癌の病理組織学的治療効果判定」  
横浜市立大学分子病理学 藤井誠志先生
- 5.「頸部食道癌」 江戸川病院外科 中島康晃先生
- 6.「食道癌におけるがん免疫」  
福島県立医科大学消化管外科学 河野浩二先生

本セミナーの受講実績は食道外科専門医や食道科認定医の申請・更新に用いることができます。例年、セミナー終了後にセミナー会場で受講証を手渡ししておりますが、今年度に限り、テキストを熟読し動画を視聴していただくことで受講とみなすことにしました。

講師の先生方には、突然の開催形式の変更にもかかわらず動画作成にご協力いただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。集合型のセミナーに優るとも劣らない臨場感あふれる素晴らしい出来の動画になったと自負しています。

教育委員会では、今後も会員の皆様「知りたい」、「知っておくべき」テーマを厳選して、教育セミナーを企画運営していきたいと考えています。

〔食道外科専門医認定施設認定部会〕

施設認定状況と申請における注意点

部会長 本山 悟

(秋田大学医学部附属病院 食道外科)

食道疾患手術を実施する施設は、各種報告を総合的に判断するに緩やかに集約化されています。しかし、我が国の集約化は諸外国のような「スーパーハイボリューム施設」への極端な集約化ではなく、地域ごとの「ミドルボリューム施設」への集約化です。2020年度、新たに7施設が食道外科専門医認定施設(以下、専門医認定施設と記す)として、10施設が同準認定施設として認定されました。これにより、2021年1月現在、専門医認定施設(正認定施設)は130施設、44都道府県に整備されたこととなります。学会としての今後の目標は各都道府県に均てん化整備された専門医認定施設の質をいかに担保していくかであると思っております。特に、高齢化が急激に進んでいる我が国においては、高齢者食道癌患者に対する手術は益々増加し、これに伴いより高度な手術および周術期管理が必要になってきます。「専門医認定施設認定=安心して高齢者食道癌手術が受けられる施設」というメッセージを社会に送れるよう取り組んでまいります。

さて、専門医認定施設認定における最も大きな要件は、食道疾患手術件数となっています。正確な認定を維持していくため、会員各位には下記について改めてご確認頂きたいと思えます。

- ①食道胃接合部癌の増加に伴い、この領域の手術は益々重要となっていくものの、現時点では、手術アプローチはどうか、下縦隔リンパ節郭清を伴った食道癌手術のみを対象手術としています。
- ②下咽頭癌に対する頸部郭清手術も食道疾患手術として認めているものの、あくまで施設に在籍する外科医が手術に参加して初めてカウントされます。つまり、施設の耳鼻科医だけで行った頸部郭清手術は対象外となります。
- ③手術件数は現地調査に代え、手術所見を確認することで行っておりますが、正確な手術件数の申告をお願い致します。

会員各位におかれましては、引き続き専門医認定施設認定業務にご理解とご協力をお願い致します。

〔食道ESD偶発症検討部会〕

2019年度全国調査報告

部会長 小山 恒男(佐久医療センター内視鏡内科)

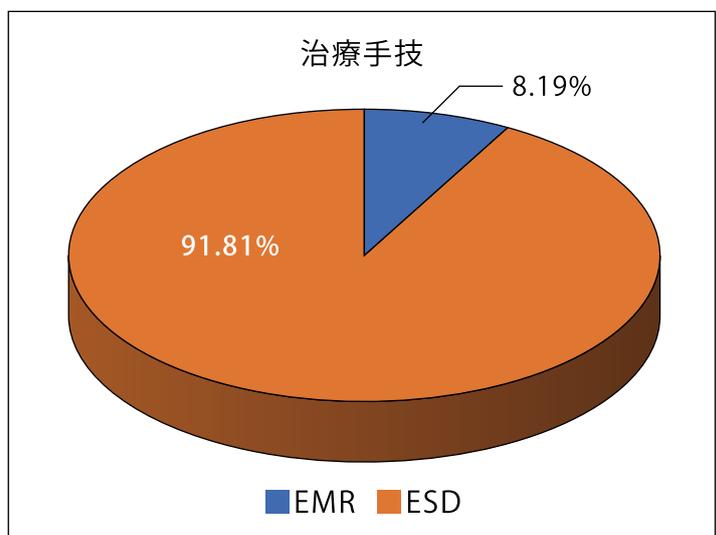
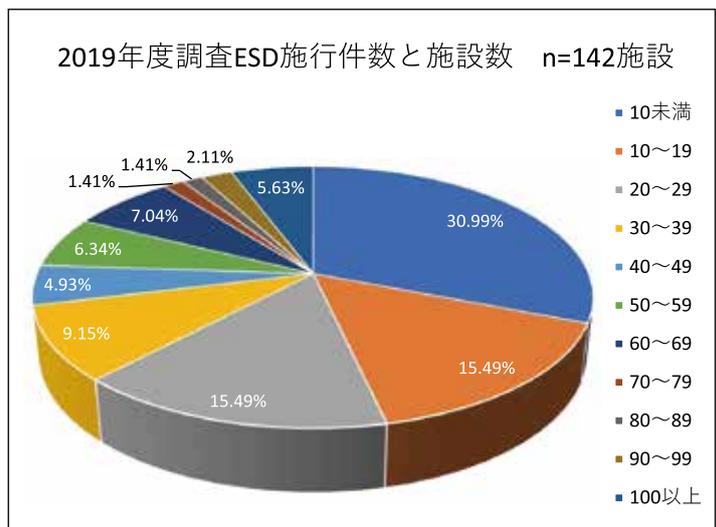
会員の皆さまにご協力頂き、食道EMR/ESD偶発症の全国調査を行いました。今回の対象は2018年4月から2019年3月に施行された食道EMR/ESD症例が対象で、同期間に439例のEMRと4,923例のESDが施行されていました。全体の92%がESDで治療されており、ESDが本邦における食道表在癌治療の第1選択手技であることが分かりました。ESDの麻酔は挿管全身麻酔が16%、静脈麻酔が84%と挿管全身麻酔は、未だにあまり普及していない様子でした。

気になる治療成績は素晴らしく、ESDの一括切除率は98.2%、一括

完全切除率は94.4%でした。また、穿孔率は0.8%とごくわずかで、全例保存的に治療されていました。他の偶発症としてESDでは2.5%に肺炎を認めました。手術関連死亡は1例のみで、これはEMR症例でしたが、術中に誤嚥し術後肺炎にて死亡されています。これも、挿管全身麻酔が施行されていたら予防可能であったと思われ、挿管全身麻酔の普及が望まれます。

ESDでは広範な切除が可能であるため、術後狭窄を5.6%に認めましたが、内視鏡的バルーン拡張術等で、適切に治療されていました。近年ではステロイド内服や局注による狭窄予防法が確立されましたが、中には難治性の狭窄を来す症例もあります。術関連死亡は上述のように誤嚥性肺炎の1例のみで、ステロイドの副作用による死亡症例は認められませんでした。

今回の食道ESD偶発症全国調査の結果、日本食道学会員の内視鏡治療レベルが極めて高く、安定した内視鏡治療が施行されていることが確認されました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。



## 会告：第75回日本食道学会学術集会

第75回日本食道学会学術集会への参加をお願いします！



日本医科大学 消化器内科学

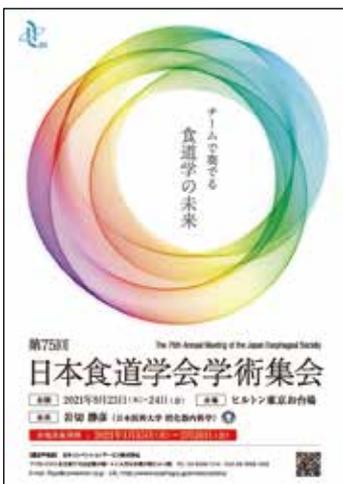
会長 岩切 勝彦

第75回日本食道学会学術集会は、令和3(2021)年9月23日(木)、24日(金)の両日、ヒルトン東京お台場で開催させていただきます。歴史と伝統のある本学術集会の会長を務める機会をいただきましたことを大変光栄に存じますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いであります。理事長の土岐祐一郎先生をはじめとする食道学会の皆様にご心より感謝申し上げます。

第75回学術集会は4年に1回の非外科系の会長である私が担当をさせていただきます。私は一貫してGERDの診断・病態・治療を中心に、食道良性疾患に関する研究を行ってまいりました。本会では本学会の中心的な検討疾患である食道癌に加え、近年増加傾向にある食道良性疾患の基礎から最先端までを学べる学術集会にしたいと考えております。多診療科、多職種の方々とも一丸となり、食道学が更に発展することを期待して、本学術集会のテーマを「**チームで奏でる食道学の未来**」と致しました。

本学術集会の演題募集は2021年1月15日より開始されます。今回は講演会場を4会場にして開催を致します。食道癌に関連する外科系、横断的セッションは従来通りに3会場を使用するとともに、食道良性疾患にスポットを当てたセッションとして1会場を使用し、合計4会場で開催する予定です。特別企画として、食道機能検査の基礎から最先端を学べるセミナー、食道良性疾患の主要疾患であるGERD、食道運動異常症、好酸球性食道炎に関する主題演題に加え、診断治療に苦慮した食道良性疾患を論ずる症例検討セッション、また、臨床医から病理医への疑問・質問を病理の先生に解説していただくセッションを企画致しました。さらに多数のメディカルスタッフセッションも準備しておりますので、多くの演題応募をよろしくお願ひいたします。

コロナ禍の状況ではありますが、コロナの収束を期待し、通常開催に近い形での開催を含め、あらゆる開催方式に対応できるように、医局を挙げて準備に取り組んでおります。今後とも会員の先生方のご指導ご鞭撻の程、何卒、よろしくお願ひ申し上げます。



## 2021年以降の学術集会のご案内

### ◆ 第75回日本食道学会学術集会

会長：岩切 勝彦(日本医科大学 消化器内科学)  
会期：2021年9月23日(木)～9月24日(金)  
会場：ヒルトン東京お台場

### ◆ 第76回日本食道学会学術集会

会長：島田 英昭(東邦大学大学院  
消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座)  
会期：2022年9月25日(日)～26日(月)  
会場：京王プラザホテル

### ◆ 第77回日本食道学会学術集会

会長：安田 卓司(近畿大学医学部  
外科学教室上部消化管部門)  
会期：2023年6月29日(木)～30日(金)  
会場：大阪国際会議場

### \* 編集後記

2020年は特別な1年となりました。全世界的に影響を及ぼしたことや、継続的に世の中の仕組みやあり方を変えたという意味では、東日本大震災よりも影響は大きいと思います。我々も、医療のあり方や、学会を含めた学術的活動をどうするべきか、これほど考えて模索した年はなかったと思います。一方で、ネットを利用したコミュニケーションはむしろ活性化したのではないのでしょうか?かという私もZOOMの名前は今年の3月まで知りませんでしたし、こんなに色々なことができることも初めて知りました。忙しくて職場を離れられない医師や、ご家庭の事情で遠出できない方々も、その気になれば、WEB経由で学会にも参加し、様々なことを学べる時代になりました。一方で、やっぱり会ってコミュニケーションをとる重要性を再認識されたのは、12月に行われた第74回日本食道学会でした。丹黒先生をはじめ事務局の先生方は、開催に向けてとてつもない労力を払われたと聞いております。ハイブリッド開催だったので、WEBで参加された方も多かったと思いますが、困難な状況の下、開催していただいたことに感謝いたします。

今年は、EsophagusのIFが上昇したり、新しい薬剤が入ってきたりと、食道がんの治療が新たな時代に入ってきたと予感させる年でした。来年以降も食道がんの新しい治療がたくさん報告されることを期待して、編集後記とさせていただきます。

広報委員会 委員長 加藤 健  
委員 本山 悟、竹内 裕也、神宮 啓一、村上健太郎  
有馬美和子、出江 洋介、熊谷 洋一、奈良 智之  
白川 靖博、山崎 誠、山辻 知樹、大平 雅一  
浜本 康夫

### 特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012  
東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階  
電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233  
e-mail: office@esophagus.jp  
ホームページ <http://www.esophagus.jp/>